令和６年度第１回箕面市総合教育会議

◆　日時：令和６年 11 月 29 日（金）10:00 ～ 11:30

◆　場所：箕面市役所本館２階　特別会議室

◆　出席者:
【箕面市】
原田市長
【教育委員会】
藤迫教育長、山元代表教育委員、高橋委員、酒井委員、飯田委員、荒木委員
【事務局】
久下教育次長、藪本局長、今中担当部長、浅井担当部長、柴田副部長、高取学校教育監、濵口担当副部長、村田担当副部長、山田担当副部長、遠近担当副部長、赤城室長、脇井担当室長、徳留室長、渡邊室長、根本室長補佐、森下

◆　傍聴人：７名

◆　議事内容
（事務局：藪本局長）

- 定刻となりましたので、ただいまより、令和６年度第１回箕面市総合教育会議を開催いたします。本日の司会進行を務めます、教育委員会事務局子ども未来創造局長の藪本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
- それでは早速、本日の一つ目の議題、箕面市教育大綱別紙 2024 の中間報告に移らせていただきます。教育大綱とは、予算編成権を有する首長と教育を所管する教育委員会が教育に関する方向性を合意し、教育行政をより円滑に進めていくことを目的に総合教育会議において議論を重ね策定したもので、本市は市長の任期に合わせて４年間を計画期間としています。また、教育大綱に掲げた基本方向の実現に向けて、毎年度教育大綱別紙を策定し、総合教育会議の場でその進捗状況を確認しているところでございます。
- 案件１は、教育大綱別紙 2024 に基づく取組の進捗状況を確認することがテ

ーマとなりますが、原田市長が就任され、今年度末には次期教育大綱の策定を予定していることから、次期教育大綱に記載するべき内容なども視野に入れた意見交換を行っていただければと考えております。なお、できるだけ意見交換の時間を確保するため、事務局からの報告はポイントを絞った端的な報告となるので、ご了承いただきますようお願いいたします。それでは内容につきまして事務局からご説明いたします。

（資料１に基づき事務局から説明）

（事務局：藪本局長）

- それでは、意見交換に移りたいと思います。今回の総合教育会議は、原田市長が就任されて初めての開催となりますが、まずは市長から教育委員会に対して、教育に関するお考えなど伝えておきたいことがあれば是非お願いできできたらと思います。

（原田市長）

- 皆さんおはようございます。新しく市長に就任させていただきました原田亮です。どうぞこれからよろしくお願いいたします。
- 平素は箕面市の教育行政全般にわたりまして、教育委員会の皆様におかれましては高いご見識を賜りながら、子どもたちのためにご尽力いただいていますことを心から感謝御礼を申し上げたいと思っています。
- 冒頭申し上げたいんですが、子育て・教育世界一にしていくということを今回公約に掲げさせていただいて民意を得たと思っています。日本一をめざしていれば日本一にはなれないと思っています。高い目標を掲げて、箕面の教育、子育てをしっかりと世界に誇れるようなものにしていきたいと本気で思っています。今日は第１回ということで、その心合わせができればと思っています。
- 各部長にも言っているのですが、やはり市役所という組織は大変大きくて、私１人で何もかもしっかり見ていくというのは限界があります。今まではトップダウンの組織だったと思います。市役所の中にどこか指示待ち

であったり、市長や理事者に判断をしてもらうというような姿勢がありました。なのでなるべく権限を部長の皆さん、各部に下ろしていっています。しっかり裁量権を持って、部署でしっかり判断をしていただくというような取組をして、責任感を持ってその部署のプロフェッショナルなんだという意識を一人ひとりの職員が持てるように、今市役所の改革を進めています。

- 同じように、教育行政については、世界一の教育を進めていくに当たって教育委員会の皆さんにしっかりと重要事項を判断をしていただきたいと思っています。
- 本来そうすべきだと思っていますが、今までを振り返ると、例えば、船場の小中一貫校の件、熱中症指数の件、どこか首長が変わってその首長の判断に引きずられていた部分があるんじゃないかと正直思っています。矜持を持って、市長が間違ってるということは、間違ってるんじゃないかということをはっきり言ってほしいと言っています。市長が言うことは正しいんじゃないですよと、市民にとって何が一番良いのかということを、是非議論をさせてほしいということを、今、言っています。是非とも教育委員会の皆様におかれましては、教育行政の方向性であったり重要事項を、責任を持ってご判断していただきたいと思っています。
- そのうえで、こういう人材が足りていないので配置をしてほしいということであったり、こういったことに力を入れていきたいから予算をつけてほしいとか、あとは大阪府であったり、国のほうの規制がハードルになっているのでここを何とか変えてもらうように働きかけてほしいとか、そういうことを是非言っていただきたいと思っています。
- そういう役割分担をしながら、箕面の教育においては、中立性であったり安定性を市長がかわっても保っていきたいというふうに思っていますので、世界一にしていく中で、皆さんの役割は本当に大きいというふうに思っておりますので、是非引き続きご尽力をいただきたいなと思っています。
- そしてそんな中でも、子育て・教育世界一にしていくということで民意を得ましたので、いろんな取組を進めていっていただきたいですし、私のほうからこうしてほしいというよりも、皆さんのほうからどんどんこうすべきだということを提案していただきたいと思っています。
- 今、縷々説明がありましたけれども、箕面の子どもたちの体力に課題がある

というようなところで、今スポーツチームとの連携を強めていっています。サントリーサンバーズ大阪さん、ガンバ大阪さん。市役所の１階を見ていただいたら分かるように、箕面市役所の１等地で箕面が誇るスポーツチームの展示をさせていただいていて、子どもたちがもっとスポーツに触れ合うような機会を増やしていきたいと思っています。

- そんな中で場所がないから、サントリーサンバーズ大阪さんに何とかグラウンドを貸してもらえないか、関西電力さんのグラウンドを使わせてもらえないか、そういった交渉を進めさせていただいています。またバスケットチームのエヴェッサさんにもアクセスして、バレーボールやサッカーだけじゃない、いろんなスポーツ、チームと連携をして、体力づくりを進めていきたいと思っています。
- また、世界一の教育を進めていくに当たって、大阪大学との連携は不可欠だと思っています。大阪大学外国語学部、今でも連携をとらせていただいていますけども、もう一歩連携を深めて、国際交流であったり、英語教育、そういったところをもっと高めていきたいと思っておりますので、是非とも、高い目標であると、何を言ってんやと言われるかもしれませんが、本気でめざさないと教育水準は上がっていかないと思っていますので、是非とも引き続きご指導いただきますようにお願いします。
- そして、この市役所の側が何か間違ってると、違うということであれば、是非遠慮なくご意見いただいて、心合わせをして、同じ方向を向いて子どもたちのため、そして箕面市民のために、どうかご尽力いただきますようによろしくお願いを申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきます。どうぞこれからよろしくお願いいたします。

（事務局：藪本局長）

- 原田市長ありがとうございました。それでは委員の皆様のほうからご意見頂戴したいと思います。どなたからでも結構ですよろしくお願いします。

（山元代表教育委員）

- 昨日、教育委員会の協議会をやっていて、さいたま市の英語教育は日本一だと市長からご指摘を受けたというお話を教育長から聞いたので調べたんですよ。そしたら調査の項目立てがさいたま市と箕面市では違うんですよ。箕面を超えて日本一だということであれば、比較する材料がないかな

と思ってもう少し調べました。

- 去年の全国学力・学習状況調査は英語があって、さいたま市の英語の結果を市のホームページで調べてみたら、やっぱり一生懸命語ってあって、さいたまの英語力は全国平均を 7.4 ポイント上回ったと、これはすごいんだということでおっしゃってて。全国平均 7.4 ポイント上回ったら、さいたまは 53 ポイントなんですよ。
- 箕面市はどうだったかというと、箕面市は 55 ポイントなんですよ。圧倒的一位なんですよ。上に行けば行くほどそう差は開かないんで、この 2 ポイントの差というのは相当大きいんですよ。
- さいたま市さんはいろんなことで一生懸命頑張ってはるんで、切磋琢磨できたらいいなと思っているんですけど、箕面市は小学校 1 年からの英語教育をもう 12 年やってますから。教科書もきちっと小学校 1 年から箕面独自のやつを作っていますので。
- 箕面の小学校 1 年からの英語教育を体感して一番実感しておられる芦屋市の市長さん。芦屋市の市長さんが本気で箕面市をターゲットにして英語教育やりだしたらこれは怖いなと思っています。体感して実感してはるから。箕面の英語教育で芦屋市長になってるから。だからもう本物なんでね。
- 市長、さいたま市さんはたくさん頑張っておられるんですけど、日本一ではないということを言っておきたいと思います。以上です。

（原田市長）

- ありがとうございます。悔しいなと思って、あのニュース。ただこれは行政の役割だと思っていて、営業マンなんですよね。箕面市を売り込んでいく、さいたま市を売り込んでいくっていうことをしないといけない。
- 教育を世界一にするっていうのは、別に学力のテストの結果が世界で一番とれてるとか、それをめざしてほしいっていうわけじゃないんですよ。ただ一方で、何か指標もないと、世界一とか日本一って感じていただけないっていうのはあって、だからさいたま市さんに対して悔しいなと思っていて。
- 例えば、箕面の給食おいしいおいしいって言うんですよ、事務局は。でもそれは証明されてるのって。おいしいと言うけど、例えば残されている率がどれぐらいだとか、低アレルゲン給食でも変わらずおいしいというアン

ケートが出てるって言うんですけど、それってほかと比べてどうかっていうのを取りに行こうよということで、給食甲子園みたいなものに今回から申し込んでいて、そこでしっかりと優勝するというようなことで、本当においしいんだっていうのを客観的指標を持って証明したいなと思ってます。

- あと例えば、保育士不足の中で保育士の手当について、いろんな手当出してるんですけど、それが箕面市はトップレベルなんですって言うんですよ、事務局は。トップレベルって何っていうことで調べたら、就職五年目まではトップだったんですよ。それって打ち出し方一つで大きく変わるというか、箕面は大阪で一番保育士の給料がもらえますという打ち出し方をしたら保育士さんの確保ももっと進むと思っていて、営業マンとしてそういう目線も大事だなと思ってるので、そこは意識していきたいと思っています。
- 世界一をめざすって言って結局数字を追うのかと怒られるかもしれないんですが、やっぱり現場教員のやる気とか、うちはやっぱり子育て世代を流入させて税収を上げて、その税収を使って教育行政に回さないといけないっていう家計を回すという役割もあるので、やっぱりそれもちゃんと追っていきたいなと思います。
- だから、取れる賞はちゃんととっていきましょうよと。箕面の教育は優れているんですよってのは本当に誇らしいんですよ私も。
- 我々由利本荘市の教育を学びに行ってたんですけど、なぜ箕面市さん来るんですかと、箕面市さんの教育のほうが優れているじゃないですかということで、今回英語教育を中学生が見に来てくださったりして。やっぱりすごいと言うんであれば、ちゃんとそれを見える形で示してほしいということも、教育委員会の皆様に意識してほしいなという指示はさせていただいてます。
- あとちょっとやればさいたま市を超えれるんだとか、日本一になれるんだっていうんだったら、やっぱりそういうところも追うべきだろうなと思っていますので、英語教育、何卒よろしくお願いします。

（藤迫教育長）

- 英語については、ICT もそうですけど、選挙のときに「生きた英語を」と言われていましたので、我々今までもしっかり英語はやってきているんで

すけども、ちょっとアンテナを立てて情報収集し、次のステップに行きたいと思っています。

- 市長から実際に提案のあったSkypeなどでできるだけ常時つないだ状態でできないかということですとか、例えば泉大津市なんかはモデル実施でイマージョン教育という他の教科で英語を使うということをやり始めてるんですよ。なかなか難しいんで、体育から始めようかということで聞いているんですけども。じゃあうちはしないのかということになってくるとね、うちはALT（外国語指導助手）が複数いますので、国語や社会とかそういう教科でのイマージョン教育みたいなのはしていませんけども、総合学習ですとか給食の時間とか休み時間とかで、実際にALTと英語で関わっていますので、言ってみればもう授業でやってるような環境になっているので、やっぱり複数のALTが学校にいるというのはありがたいことで、絶対的なうちのメリットだなと思っています。これを何とか続けていきたいと思ってますのでよろしくお願いいたします。
- 阪大との連携も、有効な資源が目の前にあるんですから、今はイングリッシュ・エクスプレッション・コンテストで会場をお借りしたり、審査員になっていただいたり、授業の中でも関わっていただいたり、また、ふくふくセンターができましたので、そういった意味で外国にルーツのある子どもたちについての支援とかやっていただいてるんですが、一歩進んで何かもう少しステップアップしてできることがないのかというのは、できたら探っていきたいなと思っています。
- 英語については、緩めるとその効果は下がっていくだけなんで、止まらずに、次こうしようああしようというのを是非やっていきたいなと思います。実際に高橋委員には既に事務局から相談させていただいておりまして、何かいいアイデアをいただけないかということで、具体に教育委員さんと一緒に議論していますので、よろしくお願いしたいなと思います。

（荒木委員）

- 教育委員の荒木です。よろしくお願いします。
- 市長の考えは選挙のときからいろいろ公約も聞いたり、読んだりして、方向性はちょっとわかってるんですけど、目に見えた部分、要は給食がおいしいんだとか、英語力を鍛えるんだとか、それよりも目に見えない部分、ちょっとネガティブなセンシティブなところをちょっと考えていて。

- まず事務局に１点質問なんですけど、LITALICOの教育ソフトについて実際の効果を知りたくて。支援教育について、どこまで箕面市が教職員に教育してるのかっていうところで、このソフトの効果を具体的に知りたいなと思って質問させてください。

（事務局：濵口担当副部長）

- はい、ありがとうございます。担当副部長の濵口と申します。よろしくお願いいたします。
- 箕面市の支援教育につきましては、支援教育の充実に当たりまして方針を作成し実施しているところです。今お話のありました、LITALICO教育ソフトについて簡単に説明させていただきますと、株式会社LITALICOが提供する個別の教育支援計画、指導計画といった、支援に必要な計画の作成のサポートをする教育ソフトになっております。
- 内容につきましては、アセスメントや、計画作成をサポートする機能のほかに、計画目標に必要なおすすめの教材であったり、教員が支援の基礎実践を学べる動画であったり、研修動画などもありまして、子ども一人ひとりの特性に合った支援の実現をサポートするといったものになっております。
- 箕面市に導入するきっかけですが、支援が必要な児童生徒が増加しているということと、教員の経験年数や、こういった計画作成の学校間での質のばらつき等の課題があったということもありまして、教員による個別の教育支援計画や指導計画の作成をサポートして、計画の質を担保できる仕組みをということで、もともとは５校での試行実施をしていたんですけども、令和５年度から全小・中学校に導入したということになっております。
- 現在は、支援学級に在籍する児童生徒、また通級指導教室を利用する児童生徒を対象に、アセスメントや指導にLITALICO教育ソフトを活用して、おすすめ教材を利用したり、このアセスメント結果に基づいた指導や支援を進めているところになります。
- 支援学級在籍や通級指導教室を利用する児童生徒だけにとどまらず、文科省のほうからも発表ありましたとおり、通常の学級にも8.8％の特別な支援が必要な子どもたちがいるということもありますから、このソフトを活用して今年度からは一部の学校で通常学級に在籍する児童生徒に対して

も、クラスや学年の傾向分析、今後のクラス運営や授業づくりに活用していく予定です。

（荒木委員）

- ありがとうございます。やっていただいていることは本当にありがたいことで、子どもたちのためにもなってるかなと思うんですけど、この支援が必要な子どもたちって、実際、明日から支援が必要になる子だっていると思うんですよね。要は曖昧なんですよね、支援が必要か必要じゃないかっていうところが。
- その辺の教育や研修を１か月ぐらいしか行ってないので、定期的にやっていただけたらと思いますし、例えば自分は必要じゃないと思っていても周りから見たら必要だという子どもたちもいますし、この子は必要じゃないと思ってても必要かもしれない。これって現場で見てたら結構見受けられることも多いので、改めてこういった取組を強化してほしいなというところをこの場で伝えさせていただきたいと思っております。

（藤迫教育長）

- 支援の子どもたちの件については、まずは小学校であれば入学するときに就学前の所属の施設とか保護者とか新しい小学校とかで議論して、お話をして、どういう支援が必要かというようなことを考えます。入学してもらって支援方針等を若干途中で方向転換することもありというようなことでやるんですけど。このLITALICOの何がいいかというと、全ての教員が支援教育に長けていてベテランということであれば、ひょっとしたらこれは必要ないかもしれませんが、経験の浅い教員や支援についてまだそんなに理解してない教員などいろいろいますので、このLITALICOを使うとそういう経験の少ない教員であっても、保護者が子どもの卒業するときの姿をどんなふうに求めているのか、そのためにどんなことを学校に求めてるのか、実際にそういう指導方針・指導計画に基づいたらこの子にとってどういう教材がヒットするのか、データを入れるとそれらの情報が出てくるということなので、そういう意味ですごいメリットがあるというのと、ややもすると今までは担当した支援担当の先生だけが今言ったような情報を把握していて、本来は組織として当然共有しないとだめなんですけども、担当が替わったときにもう１回同じことを保護者の人に聞いたりするのかという

ことからいうと、このデータの蓄積で全教職員が共有できるということで、誰が担当になっても、学年が上がっても、誰が管理職になっても、この子の保護者が求めている卒業時の最後の姿はこういう姿で、我々は成長段階に沿ってこういうことをしていかないといけないということを共有できるというのが最大のメリットかなというふうに思ってます。しっかりやっていきますので、よろしくお願いします。

（原田市長）

- 世界一にしていくというとこういったところが手薄になるんじゃないかというご心配を受けるかもしれないですが、今回、公約でも障害のあるかたであったり支援が必要なかたも含めて、やっぱり箕面市としてもしっかりやっていきたいということを基本方針、15 項目しかない中の一つの柱として打ち立てましたので、ここもしっかりやっていきたいと思います。
- ただやはり、教育行政って目に見えないじゃないすか。多分ここでいろんな議論をしてもその成果が出るのは 10 年後とかになって、なかなか市民の皆さんに箕面の教育が変わったねってすぐに実感していただくというのは難しいところではあるんですけれども、そういう営業マン的に外に発信していくための部分も必要だと思います。
- しかしこのような、なかなか目に見えないような声なき声をちゃんとすくい上げて救っていくことも両輪で必要だと思っているので、ステップアップ調査なども活用しながら、見逃さずに、そしてどういった教員でも同じようなレベルで対応できるようにというのは引き続きやっていきたいと思っています。
- 今日いただいたご意見、しっかり予算に反映できるところがあればちゃんと対応していきたいと思っています。ありがとうございます。

（高橋委員）

- 教育委員の高橋です。よろしくお願いいたします。
- 先ほど市長からのお話で世界一をめざすと改めてお聞かせいただいたところで、その指標についてお話しされたと思うんですけども、やっぱり指標がないとめざしていくのは難しいなと思います。
- お話の中には数値的なということも出ましたが、やはり定量的な指標があったほうが受け取る側も見やすいしわかりやすいっていうところだとは思

うんですけども、教育の現場の中では定性的な部分もかなり大部分を占めているところがあって、全てを定量的なものにするのも難しいのではないのかなとお話を聞きながらちょっと思いました。

- ですからそこをどのように見えるようにしていくのかというのが、これから考えていかないといけないのかなと、お話を聞いて思ったところです。
- この大綱に関して、せっかくの機会なのでいろいろとお話させてもらえたらと思うのですが。
- 「児童生徒を誰一人取り残さない支援」の中に、外国のかたに向けた日本語支援という項目があるのですが、市長もよくご存じだと思うんですけど、最近、外国のかたに発給される在留資格も非常に増えていて、日本で働く外国のかたが増えているんですよね。働くための在留資格であれば、家族帯同が認められないものも非常に多くあって、そういう分野においてはこれまでとあまり変わらず、言わば短期労働者として来て、働いて、帰っていくというところだとは思うんですよね。
- こういうかた向けの日本語支援は、雇用する各企業がある程度担っていけばいいと思うんですけども、最近は技人国のビザの発給数が劇的に増えてきていて、これは日本語学校とかを卒業した人にはある程度以上日本語力があるからということで、個人的にはその人ほんまに高度人材なんかなっていうレベルの人も高度人材として認めて在留資格発給しているケースが非常に増えてると思うんですよ。というか実際増えています。この技人国のビザっていうのは家族帯同が許可されているものですので、配偶者であったり子どもを日本に連れてくるというケースが技人国ビザの発給が増えると同時に家族滞在ビザも劇的に増えてきてます。
- 箕面市内ではまだそうではないかもしれないんですけれども、一部の都心部では、外国人の子どもの数がものすごく増えていて、これはこの次の議題にもつながるかもしれないんですけども、言葉がわからないとか、そういったところで学校に通わない子どもも結構増えていると思います。
- 今後に向けて、こういった外国の子どもに向けた日本語教育の支援っていうのが必要になってくると思うんですよね。増えてきてから対応するとやはり後手になってしまうので、来る前にあらかじめ準備ができるのであればしておいたほうがいいんじゃないかなというのは思ってます。
- そのためにどれぐらい予算が必要なのかとかそういったところまで今アイデアはないんですけども、今後そういうのが必要になると思うので、ちょ

っと考えておいていただけたらなと思います。どういった準備をするかによって予算規模も変わってくるとは思うんですけど、是非お願いしたいなと思います。これがうまくいかない地域では、外国人のかたと日本人のかたとの間でハレーションが起こったり、全く望まれないケースも起こってると思いますし、箕面がそういう地域にならないように是非お願いしたいなと思っているところです。

- また心の日記の話がありましたが、以前、教育委員会の協議の場で話していたときに、心の日記ってちゃんと使われてるのかみたいな話があって、ネガティブなことを書くと先生が「何かあったんか」って聞いてくるのがうっとうしくて、結構書かなかったりするケースもあるような話を聞きました。ですからせっかくあるんですけど、これが十全に機能しているとは言いがたいのかなというふうに思っておりまして。これがパワーアップしたものを作るためにもっとお金が要るとかそこまでは言わないんですけども、今のものが 100%機能してるわけではないので、おそらくこういった分野でももしかしたらまたお金を使っていただければということをお話をさせていただくことがあるのではないのかなと思います。これもせっかくなんでお願いしときたいなというところです。
- 体力向上についてはいろいろ頑張っていただいてるんですけど、正直なかなか成果が出ていないというところで。以前教育長から、運動会でもゴールまで全力で走り抜けない子どもが多いというお話も聞きました。そもそもそういうことだったら体力テストの結果が全国平均と比べて劣っているとかそれ以前の問題で、そういったところをしっかりするっていうところが必要なんじゃないかな、みんな頑張ったら意外と全国平均レベルで走れたりするのかなって思います。そもそもやるべきことをしっかりやった上での評価というのも必要なんじゃないかなというところですね。
- 部活動の地域移行についても非常に心配しているところです。事務局の皆さんが国からの様々な通知を受けていろいろ頑張って取組をしていただいている中ではあるんですけれども、やっぱり子どもたちが部活動に参加する、あるいはスポーツをする機会が減少してしまうんじゃないかなというのを憂慮してます。ですので私の考えはやっぱり部活動というのは学校の中でやるものだと思っているので、できればそういう方向になればいいなと僕は思っています。そうするとやっぱりどうしてもお金がかかることだと思うんですよね。単純に指導者を学校に入れるにはお金がものすごくか

かることなので、部活動の地域移行予算との兼ね合いもあるかとは思うんですけれども、子どものスポーツする機会を減らさないために是非それもご協力お願いしたいなと思っているところでございます。

- 子育てに関しては、先ほど保育士の人手不足という話がございましたが、先日の報道でも、国が予算をつけて保育士の手取りが増えるようになりますっていう報道を新聞で見たんですよね。しかしそういうことをしたら本当に人手が増えるのかという疑問を持っています。というのも先ほどのお話にもありましたけど、結局保育士っていうのは近隣の地域と取り合いになっているという状況だと思うんです。ですから全体をぱっと上げたところで、全体の量がほんまに増えるのかなというところをやっぱり心配してます。近隣のところでの取り合いをするだけではなくて、いろいろな保育士を教育しているような学校との連携をもっと増やしたらいいのではないのかなというふうには思っています。
- 私、関西学院っていう学校法人の後援会の幹事も務めておりまして、年に2回幹事会があるんですけど、そこにいくと系列の学校の校長さんとかみんな来られていて、昔でいう短大で保育士とか教育してるんですよ。その校長先生と話をしていると、西宮や神戸など一部の地元自治体とは連携しているということでして、じゃあ箕面市はそういう話してくれたら聞いてくれるんですかっていうと、全然聞きますっていうんですよね。学校側もいろんなところから生徒が来ているので、その地域だけではなくて、意外と遠方の学校にアプローチをかけてもいけるんじゃないのかなというのを感じています。箕面市も大阪青山大学さんとか梅花女子大学さんとかとお話をしていると思いますが、もっと広い範囲で考えてみてもいいのかなというのは思っているところです。
- 生涯学習について、スケボーパークなんですけど、これはできたら市長へのお願いなんですけど、箕面市の広告塔として「スケボーパークめっちゃおもろいで」ということで、一度スケボーをしてる動画なんかも上げてもらえば良いかなと思います。みんなやりましょうみたいなね。多分、スケボーやってる人だけが今利用してる感じで、新たに始めるっていうところまではまだいっていないと思うので、是非原田市長にも一肌脱いでいただいてお願いしたいなと思っているところです。
- 長々となってしまいましたが私からは以上です。ありがとうございます。

（原田市長）

- ありがとうございます。スケボーの動画はとります。やります。やったらどうですかというものはもうやります。
- 日本語支援の子どもたちの件も、あと部活の地域移行の件も、決めてください。皆さんの方針に従います。
- ちょっと考え方を変えていきたいなと思っています。もちろん予算が伴うもので議会への相談もいるというところで一定こちらのほうでそれはちょっと難しいですというお返しをするかもしれないんですが、これをやりましょう、やってくださいというのは、皆さんのほうでこれからは考えてほしいなと思います。これやれよというトップダウンをやめていきたいなというふうに思っているので、教育委員会の中で、今から外国人の子どもたち、日本語をしゃべれない子が増えていくのでどうしましょうかと、いやこれは市としてこういうことをやってもらおうじゃないかというのを考えてほしいです。
- 「こんなんやるべき」ではなくて「やってください」というふうに考え方を変えてもらえたら嬉しいなと思います。そのくらい教育委員会の皆様を信頼しておりますので、是非役割分担の中で教育行政の方向性は皆さんが責任を持って定めていただきたいと思っています。
- 我々としてはふくふくセンターとか、国際交流協会とか、他市にはない先進的な機関がありますので、やっぱりそことしっかり連携を深めて、ありがたいことに大阪大学さんもまさに地域に根差していきたいということを今の学部長も言ってくださっているので、そういったありがたいお申出をいただきながら、連携を深めていきたいと思います。ただそれ以上に足りないものがあるっていうんだったら、こういうのをやってくださいという提案をしていただければそれで進めますし、地域移行もどんどん外でやっていくんだという方針が間違ってるんだと、やっぱり学校内に指導者を呼んで学校の中で教育としてやっていくんだという方針を打ち立てていただくんだったらそれに従っていきますので、是非それは教育委員会の中でしっかり議論をしていただきたいと思っています。
- 大学への営業なんかは我々の役割だと思っていますので、それをしっかりやっていって、少しでも箕面の保育士は大阪で一番お金もらえるのでと。全体のベースアップはしますけど、うちはそれにプラスオンをして５年目

までは大阪で一番もらえると、営業できるツールが増えましたので。しっかり大学に働きかければこれまで以上に応募者は増えると思っていますので、営業をしっかりやっていきたいと思っています。

（飯田委員）

- 教育委員をしております飯田ひとみです。よろしくお願いいたします。
- 市長は世界一っていうところを掲げられて、箕面らしさって何だろうと思いながらこの４月から教育委員をさせてもらっているんですけれども。運動会に行ったり、入学式に行ったりとか、そのときに子どもたちが結構自主的にするプログラムを一生懸命現場の先生たちが考えてるんですね。運動会とかも、子どもたちの実行委員をつくり、そこでプログラムが三つぐらいできたんですよっていうような報告を受けながら、これでいいんだろうなって、現場力が全て大切なことでそれをバックアップできるようなこういう教育委員会でありたいなあっていうのは思っております。
- 子ども一人育てるのに、公教育、地域教育、家庭教育。この三つが子どもたちの大きな柱になると思うんです。
- 家庭教育の部分、本当にどこのご家族も、時間もつくりお金もつくりっていうところで、塾も行かさなあかん学校もいかさなあかんみたいなところで頑張られてる中のちょっとした補完するところが地域であると思うんですね。
- この地域教育の部分、子どもたちのアンケートから、箕面市はボランティアに参加したことがないとか地域行事に参加したことがないっていうようなところが出てきたっていうのを聞きまして。意外と普通にしていることなんですよって思うんですね。子どもたちがいろんなところにイベントに参加すること、自治会とかも来ることが地域教育だっていうところを普通にしてしまっていて評価に出てこない部分もあるんだろうなと思いながら。私自身が子ども食堂であったり、子どものまちミニミーノをしたりとかする中で、たくさんの子どもを見る中で本当に自分の言葉でしてるなあと思います。
- 要望としましては、行政と民間の間のソーシャルセクター、ここの部分に関しての予算化。心の居場所にもなっている福祉領域にもまたがっているところなので、NPO さんであったり子ども食堂のネットワークであったりというところ、社協のほうが握っていますので、そこの予算化をしつつ、

子どもの第三の居場所、心も体もっていうところをできないかっていうお願いです。

- それと部活動地域移行に関しましても、今、文化部、運動部、いろいろあります。それ以外にボランティア部であったり、自分だけじゃなく地域を、自助であったり公助であったり共助であったり、ここの部分の育みをできる、箕面市だからこそできる施策っていうのを具体化してほしいなって思います。これは事務局にもそうですし市長にも要望させていただきます。お願いいたします。ありがとうございます。

（原田市長）

- 本当に普段から子ども食堂等を担っていただいてまして本当にありがとうございます。
- 子ども食堂も全部回ると言って今で 3 か所ぐらいですけど回っていまして、ちゃんと声を聞いてから判断しようと思っているのですが、まず取れる補助金は取りましょうよという話をしていまして。国で補助金がある、民間でも補助金であったり食材の提供があるということでしたら、まずはそっちを取って、その上でも足りない、だから市で予算化してくれって言うんだったら理解できるんですが、まずは取りに行きましょうということを市としても力を入れてやらせていただこうと思っています。
- 事務局を担うかた 1 人が市役所に 1～2 時間来ていただいたら、国の申請も全部お手伝いしますと。その 1～2 時間来ていただいたら国の補助金が取れるぐらい我々としてもサポートしますので、まずはそれを取りに行きましょうという案内をこれからしていって、国の補助金をしっかり取って運営をして、それでも足らずがあるんだったら、何か考えないといけないなと思っていますので、まずはそこをさせていただきたいなというふうに思って指示をしております。
- 公が担えない部分、また民間が担えないその間の部分でいろいろやっていただいていることに対する支援ってなかなか難しいなと。つまるところお金になってしまうんですけど、お金をかけずにできることからまずやっていきたいなと思っています。本当に日頃ご尽力いただきありがとうございます。

（酒井委員）

- 市長とは、古くからの知り合いでもありますので、今までいろいろお話しさせていただいているんですけど。私も2年近くこういう仕事をさせていただいてる中で感じていることとしては、子育て・教育世界一という目標を掲げて旗を振っていただいてるのは非常にありがたい話で良いことだと思うんですけども、やっぱりそれで意識を変えたうえで、具体的に何をしていくかっていうことが非常に重要だと思います。
- 例えば大谷翔平君が世界一の野球選手になるためには、何がその周りに必要なのかのマトリックスみたいなものを作っていると思うんですよね。160キロの速球を投げるってなったら、そのために次どんなトレーニングでどんな意識で練習をしないといけないかとか、そういうことがどんどんどんどん出てくると思うんですね。
- もちろん市長にっていうわけではなくて、我々と一緒に具体的な目標とかゴール、あるいは課題をピックアップして、これを解決していかないといけないんだっていう話にならないと、場当たり的な話ばっかりになってしまって、あんまりお金をかけずにできることとか、意識改革とか、大事なんだけども、そういうやりやすいことばっかりやってしまうと思うんです。
- 先日、小・中学校の先生と意見交換会をしたときにいろいろご意見を聞くと、教育委員会の協議会の中でも出てる話なんですけど、建物とかハード面とかの充実っていうのはすごくお金もかかるし、すごい大変なことなんでなかなか着手しにくいんですけど、やっぱりそういうところにすごくお金をかけて充実させていこうとしている市町村がやっぱりあるわけで。箕面は小中一貫校を作ったり、また新設校の話も出ていたりするので、力をかけてるところはあるんですけど、じゃあ既存のところの学校の設備が充実してるかとか、そういうところってやっぱりなかなか手をつけにくいんですね。そういう手をつけにくいところも、ちょっと我々のほうでもちろん検討して、意見とか交換させていただきたいと思うんですけど。そういうところにも目を向けて、今市長が替わったところでいろいろ策定していって、走り出してしまったらもう取りあえずそこのところだけ走っていけばいいみたいな感じの雰囲気にもなりかねないので、最初のところで、そういう気づいたところとか、そういうところは一緒に意見交換して、ゴール、目標、課題みたいなものを今洗い出しするのが一番いい時期だと思っ

てますので、させていただければなというふうに思っています。

（原田市長）

- ありがとうございます。本当おっしゃるとおりだなと。世界一世界一というだけではなかなか世界一に到達できないと思っていますので、まず子育て・教育世界一の定義は何かっていうところをしっかり議論しないといけないなと思っています。何をもって世界一なのか、学力テストの結果とかじゃなくても心の部分とかですね。例えばさっきのさいたま市以上に、箕面に来たら英語がしゃべれるようになるみたいなのとか。多分世界一の捉え方がそれぞれ違いますし、事務局もそれぞれ違うので、世界一とは何かというのを定義づけしないといけないってのはもうそのとおりなので、また議論を時間をとってさせていただきたいなと思います。
- スタートの段階だからしっかり心合わせをして、あとはしっかりお任せをしていくみたいなところで、まずそのスタートの世界一は何かというのは話し合わないといけないですし、さっきの指標も大事やなと思いました。
- ただやっぱり教育の難しいところって、今打った政策の効果が出るのが 10 年後とかざらにあるわけじゃないですか。だからなかなか検証していくのも難しいところはあるんですけど。ただ KPI をちゃんと設定してこの段階ではここまで到達できてるねとか、そういった目標の打ち立ても必要ですのでそれはちょっと定めていかないといけないなと思います。
- 山元委員からもあったように、まずはこの日本一、さいたま市より上だと、箕面に来たらこれぐらいの英語が義務教育課程を経ると使えるようになるんだみたいなところ、ちょっと打ち立てたいなと思っていますので、高橋委員のお力もお借りしながらそういったところも一緒になって目標設定できればと思っています。懇親会なんかもしながら、心合わせをしっかりしていきたいなと思います。多分この場では言えないような話もいろいろあると思いますので、また近々、是非そういった場を設定していただければ大変うれしく思っていますので、事務局もよろしくお願いします。

（事務局：藪本局長）

- はい、ありがとうございます。議題 1 で大体予定していた時間なのですが、他に何か言い残したことなどはないでしょうか。
- 活発な意見交換、ありがとうございました。今回頂戴いたしましたご意見

をもとに今後も取り組んでまいりたいと思っております。なお今年度の取組結果につきましては、今年度末に開催予定の総合教育会議でご報告する予定ですので、そのときはまたよろしくお願いいたします。

- それでは二つ目の議題、「令和5年度児童生徒の問題行動不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の報告と箕面市の状況について」を進めさせていただきます。
- 本件は、文部科学省初等中等教育局から、令和6年10月31日に公表した児童生徒の問題行動等に関する調査結果の概要について市長に共有するとともに、本市の現状について併せてご報告することで、市長及び教育委員会の認識を共有し、今後の対策の検討を円滑に進めることを目的としています。
- それでは資料2に基づき、事務局から調査結果と本市の現状についてご説明をさせていただきます。

（資料2に基づき事務局から説明）

（事務局：藪本局長）

- 本案件は箕面市の現状を共有するための報告案件ということですが、まだ少し時間がございます。もし、ご質問やご意見等がありましたらどうぞよろしくお願いいたします。

（山元代表教育委員）

- この統計の結果はニュースにも大きく出ていたので全国でも話題になってると思います。34万人の不登校、長期欠席は50万人近くいるんやね。だから調査の項目立てというのは市民のかたはあんまりわかってないんで認知していただく必要があるなと思っていて。その他という項目があって、そこにも多数の子どもたちが含まれていて、この子たちの分類はあんまりちゃんとされてないという状況なんですよ。これだけの数の子が学校に行けてない、不登校もしくは長期欠席という扱いを受けていて。
- 私が府教委にいるとき、平成10年か11年だったかちょっと忘れたんですけれども、大阪府内で四つの中学校だけが不登校ゼロだったんですよ。その学校を見に行こうということで、七つの教育事務所を引き連れて見に行ったんですよ。東大阪の高井田中学校というところです。結構小さな下町

なんですけど、学級数は全学年で6クラスか7クラスのちっちゃい学校やったんですけど、行って話を聞いてなるほどなと思ったのは、自習を出さないということを目標にしてると。自習を出さないとはどういうことかと。例えば3年生が修学旅行に行くとなると、1年生の先生も2年生の先生も応援に行かなあかんと。2年生が林間学校だと、1年生の先生も3年生の先生も応援にいかなあかんと。いろんな行事ごとに先生がごそっといなくなると。そのようなときは、本来は自習になるんだけども、廊下でこども達が学校の先生と授業の合間に話をして、「先生今度こんな行事やろうや」ということで、行事をばんばんやる。だから高井田中学校は自習が無いということでした。

- 高井田中学校は「学校の行事は廊下で決まる」というスローガンを立てていて、子どもたちと生徒との話し合いによって全部作っていくと。なるほどな、そういう形をとって子どもたちが積極的にいろんな学校の行事に参加しながら、まして自習というものを作らない。なかなか面白い取組だなと思って帰ってきました。
- こんな状況の中学校があって頑張ってるなと思っていたけども、その次の年、大阪府は全部の中学校が全滅でした。全校不登校が出ました。ここまでやってくれてもあかんかったんやと思いました。
- この不登校に対する取組をね、やっぱりちょっと観点を変えてやっていかなあかんのかなと僕は個人的には思ってます。
- テレビでもいろんなコメンテーターの議論とかいろいろなされている中で、不登校という取組もしくは長期欠席という取組を違った形で考えていく中で、原則の何年何組という学級編制、こっから考えていかなあかんのやろなと。あと5年経ったらひょっとしたら100万人、200万人ぐらいの子どもたちが学校行ってないという可能性は非常に高いと思うんです。
- そういう状況が先に見えてんのに、何も取組をしないというのはちょっとつらいなと思っていて、この不登校の取組については結構大きな力を持ってやっていかないと、どこの町も結構苦しむ状況があるから箕面も当然苦しむ状況になるのかなと思っているので、何とか皆さんと話し合いながらできたらいいなと思っています。

（原田市長）

- 難しくてですね、これ言うと怒られるかもしれないんですが、私もちょっ

と答えを持ち合わせてなくってですね。この不登校児童生徒数の数をどう見るかっていう議論が多分あって、もちろん公教育を担うその責任者として、なるべく義務教育をしっかり経ていただきたいと、全員にしっかり受けてほしいという思いはもちろんあるという前提の中で、不登校でもいいんじゃないかという議論も一定あって。もちろん不登校になると、親が働けなくなるとか、そのままひきこもりにつながるとか、自殺につながるとか、そういう不登校に伴ういろんなマイナスなことはあるのですが、不登校でも学校という場ではないところで独自で学んで社会に貢献できる人材に育っている子もいたりして、この不登校の数をどう評価していくのかというのはすごく難しいなと思います。

- もちろん箕面市がいろんな取組、先ほどおっしゃったような学校行事をどんどんやるよとか、いろんな取組をやっても、ただその上でも多分、この伸び率を見てると、必ず不登校の子っていうのは生まれてくると。だからそうなったときに不登校をゼロにするんだっていうのをめざすのか、不登校に伴うそのマイナス要因、親が働けなくなるよねとか、ひきこもりになって就労につながらないよねと、そういうところの支援をしていく、だから不登校は認めつつもそのマイナス要因を最小化していくっていうのも考え方としてあるなというふうに思っていて、どっちをめざすべきなのかっていうのはちょっと私自身も答えが出ていなくて、お叱りを受けるかもしれないんですが、そういったところも是非教育委員会でご議論いただきたいなと思います。
- 多分もうゼロにするとか、数字を追っていくって結構難しいんだろうなとこの部分については思っているので、どうしても生まれてしまう不登校の子をしっかりと支援をしていくと、学校以外での学びを支援していくっていう方向性も一定あるんだろうなと。ただそれが本当に正しい姿かってのはちょっと私自身も見出せてないので、そういったところもまた議論を深めさせていただければ嬉しいなと思っています。

（藤迫教育長）

- この問題は教育委員会の中でも何回も議論をしていて、まさにおっしゃっているような、高橋委員からもご意見をいただいておりますけど、今の取組として、一つはコロナのときに我々経験したんですけども、それを踏まえてオンラインっていう方法っていうのが、学校と子ども達をつなぐ方法

としてあるなと。「オンラインならつながりますよ、でも顔は出せませんけどね」みたいなつながり。小さな一歩ですけどもそれもありだと思っています。

- それから先ほどの中間報告で出ましたけども、今回初めての試みで「ゆずる遠足」という取組をやったんですよ。12 人か 13 人程度ですけども不登校のお子さんを対象にとりあえず自宅の外に出られるきっかけを作れたらいいなということで。よその先進市なんか見ると、1 泊っていうふうな取組もあるんですけどもいきなりそこは無理なんで、スモールステップとして、半日ぐらいでやるということで声を掛けました。感想を見るともうとってもいい感想で、「よかった」、「次もまたやってもらえないか」、「子どもが日頃見たことない表情になった」などの感想があって、登校につながっているケースもあると。今回試行的にやりましたけども、これは僕としては続けていきたい、もしくは拡大していきたいなと思います。今の取組を紹介させてもらいました。
- それと全体の話でいうと、昔、我々のときには、例えばフリースクールとかそういう学校以外のところに行かれてる子どもっていうのは、1 条校に帰らなあかんという取組をしてたんですけど、今はもう方針が変わっていまして、必ずしも学校に戻ることだけが目標じゃないよと、その子に合った過ごし方ができるところがあるならば、それはいいんですよと。もう少し大きく捉えてその子どもたちが社会で自立していくために、今この瞬間、どう過ごすことが良いのか。学校が適してたら学校ですし、学校以外の場が適してるんだったら学校以外の場ですよというような方針に変わっていますので、まさに不登校をゼロにするということはもう目標にはならないのかなと思います。
- ただやはり学校以外の居場所に行ってる子のリスクはあるんです。学習の遅れがどうだとか、やっぱり学校教育の持つ意義というのはいろいろあるので、国も言っていますけども、直ちに学校に戻ることだけを目標にするんじゃないよと、でもいつでも学校に戻れるように在籍しているフリースクール等と連携をとって子どもの状況を共有するというのが条件になっていますので、その辺はしっかりやっていかないとあかんと思っています。箕面の子どもたちもそういうところに行ってる子どもは少なからずいますので。目標としては「将来、社会に自立していけることをめざす」ということになります。

- しかし前提としては、学校自体が良い学校でなければなりません。先ほど酒井委員がおっしゃったように、行っても汚い、電気が薄暗いという学校ではなくて、学校がきれいとか、いじめがないとか、学校の先生は誰でもしゃべりやすいというのが前提だと思います。
- 学校には来てほしいなという取組をいくつかするのと、逆に学校以外のところで過ごす子どもたちについても、その学校とは連携していく、という両立でいかないといけないと思っています。どっちがいいのかという考え方は今の考え方としては違うかなというふうには思ってます。

（高橋委員）

- この不登校のこと、原田市長が先ほどおっしゃったことを私も同じことを思っていまして。不登校児童生徒数をどのように評価するのかということで。
- 単純に学びの多様性ということで、学校以外でも学習できる場、例えば先ほど教育長がおっしゃったオンラインの教育であったりとかができたので学校に通わずに学ぶ子が増えているということであれば、これは子どもの選択肢が広がったという意味ではどちらかといえばプラスに評価できるのではないかと思うんですよね。
- ただそうではなくて、将来にわたって子どもへの不利益をもたらすような不登校、そういうものが増えているのであれば、やっぱりそれはなくしていかないといけないと思うんです。ですから単純に不登校生徒が増えているというところだけを見るのではなくてその中身をもっと精査する必要があると思います。
- またちょうど今朝のNHKニュースでもやっていましたけど、不登校児の保護者の5人に1人は離職してるらしいんですよ。結構な割合やなあと思いまして。単純にこれだけの数の子どもが不登校になっているということはその5分の1の保護者が仕事を失っているということになってるので、社会に対する影響もかなり大きいんだろうなと思います。ニュースの中では、そういった保護者の方々の居場所づくりの取組に関していろいろやっていたので、もしかしたらそういったことも箕面市の中でも、何かできることは出てくるかもしれないなと思います。
- 繰り返しになるんですけども、その子どもたちに不利益をもたらしているようなことがあるのであれば、それに集中して、なくしていくというのが

大事だと思いますので、単純に不登校ということだけで一概に評価しないほうがいいのかなって僕も同じように思っています。

- またいじめの認知件数についてですが、これは全国に比べて多いんですけども、これは良いことだと思っていまして。やっぱりいじめによってこれも同じく子どもに不利益をもたらされる前にこうやって認知して止めるということが大事だと思いますから、必ずしもその認知件数が多いから現場は何やってんねんって話じゃなくて、むしろよくこういうのを見つけてくれたということで、評価するというような形にも転換をしていくことも必要だと思います。

（荒木委員）

- 先ほど高橋委員のおっしゃったことも全てだと思っていますし、環境が子どもを育てることだとも思っていますので。ちょっとこのいじめであったり不登校に関して発言させていただくと、やっぱりこういうのも業務支援にもつながるので、例えば教職員が足りなかったりっていうのは業務支援で補っていただいているんですけども、まだまだ現場としては足りていない現状っていうのはあるわけで。要は教職員が余裕を持った考えができると、子ども一人ひとりに向き合っていける状況にもなると思っています。その辺の業務支援の人数の増加であったり、予算の整備であったりっていうのは改めて検討していただく要素になると思っていますのでよろしくお願いいたします。

（藤迫教育長）

- 僕も今ちょうどそれ言おうと思ったので言っていただいてありがたかったです。SSW（スクールソーシャルワーカー）の位置づけは本当に大きいなと思っていまして。例えば今、教員事務支援員とか教頭事務支援員などをつけていますけども、どれか一つとなればSSWを増やしたいなと思っています。
- 極端な話で言うと、各校に１人常勤のSSWがいるというのが、私の究極の希望です。さすがにそれは現実的でなさ過ぎますけども、多分常勤のSSWが１人つくと劇的に学校って変わるんだろうなと思っています。そんな無茶は私も言いませんけども、それこそ予算要求の時期にはもう１回教育委員会の中で話をして、このくらいならもしかしたら市長が「うん」と言っ

てくれるかもというくらいの提案を是非させてもらいたいので、今日この場を借りて宣言しておきたいと思います。よろしくお願いしたいと思います。

（事務局：藪本局長）

- はい、ありがとうございました。ご用意した案件は以上です。何か全体を通じまして、最後言っときたいこととかありましたら、よろしいでしょうか。

（藤迫教育長）

- 事前調整していないけど事務局に対して。
- この流れで言うと、予算要求時期の前に総合教育会議を開催することができないか。そうでないと市長の前で言って悪いけど、市長は権限を下ろすって言うてはるやんか。となると、予算査定の権限も下りてるねん。
- 何が言いたいかって言ったら、我々が一生懸命予算上げていっても、総務部長の予算権限が大きくなっているから、そこでシャットアウトされると教育委員会の意向が市長のとこまでいかないから。総合教育会議のような市長と教育委員会が意見交換できる場で、我々の考えをまとめて、「大体こんなことをしたいんだ」と、「それについてはこうしたいんだ」と言える場があったほうがいいのかなと。それで総務部長にプレッシャーかけるということで。

（原田市長）

- 予算編成権の権限はこちらにあるんですが、教育行政の方向性は市長より教育委員会の意見を皆さんにしっかり聞いてほしいというふうに思っていますので、その方針転換、私がこうせよということに従うというのじゃなくて、繰り返しになりますけど、熱中症指数についても小中一貫校の在り方についても、教育委員会の考え方に沿いたいと思います。
- もちろんそこで予算的な部分で対立することはあるかもしれないんですが、教育の方向性については、市長より教育委員会の皆さんの意見をしっかり重視するということでよろしくお願いいたします。

（事務局：藪本局長）

- はい、ご意見たくさんありがとうございました。
- それではちょうどお時間となりましたので、以上をもちまして、令和６年度第１回箕面市総合教育会議を閉会いたします。
- 皆様本日はどうもありがとうございました。

以上